

2019年度③

# 民 法

(全 3 ページ)

## 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

## 民法③

I 下記についてそれぞれ 80 字以内で説明しなさい。(各 10 点)

- (1) 形成権
- (2) 強行規定(強行法)

II 次の問題〔1〕〔2〕のうち、1問を選択して解答しなさい。

〔1〕 次の事例につき、下記の問題に答えなさい。各問題は独立した問題である。

(100 点)

Aは、Bの代理人として行動していたCとの間で、Bの所有する甲土地(時価1億円)を購入する契約を結んだ。その後、Aは、甲を1億2000万円で転売する契約をDと結んだ。

当初の契約では、代金はAからB名義の口座への振込みで決済することになっていたが、Cからの決済日前々日の依頼により、Aは、決済日にCに小切手を渡し、甲の引渡しを受け、甲の所有権の移転登記を得た(Dとの契約の決済は未了で移転登記もされていない)。

ところが、CはAから受領した小切手をBに渡さず、銀行において払戻しを受けた現金を持って行方をくらました。Aは、Cに代理権があることは、委任状およびBへの照会によって確認していた。Aは、Cが、最近、危険な投資に熱中し大きな債務を抱えていることを知っていたが、決済方法が前々日に振込みから小切手交付に変わった点については、Bに確認しなかった。

(問1)

Bから甲土地の移転登記の抹消と引渡しを求められたAは、この請求を退けることができるか((問2)の問題は、ここでは検討しなくてよい)。(40点)

(問2)

仮にAが(問1)のBからの請求に応じることにした場合、Aは、Bに対して、1億円の代金の返還との引換えを主張することができるか。(30点)

(問3)

仮にAが(問1)のBからの請求に応じることにした場合、Aは、Cに対して、何を根拠にどういう請求をすることができるか。(30点)

[2] 次の事例につき、下記の間に応えなさい。(100点)

1. Aは、自営の工場で使用していた特殊工作機械(以下、甲という。)の不具合が生じたため、機械の製作および修理を行っているBに修理を依頼した。8月に入るとAは仕事の都合で甲を使う必要があったため、納期は7月末日とされた。Bは、2018年7月2日、自らトラックを運転し、甲をBの経営する工場に持ち帰った。
2. Bは修理を始めるにあたって、甲を詳しく調べたところ、甲の不具合は機械部分のみならず、電子制御装置の不具合とが競合して生じていることが判明した。Bは、機械の製作および修理に必要な電気関係の仕事は、いつも専門業者のCに依頼していたため、甲の修理に際してもCに連絡を取った。
3. Cと相談のうえ、甲の機械部分の修理をまずBが行い、その後に甲をCの工場に運搬し、電気関係の修理を行うことになった。そこで、Bは7月17日には機械関係の修理を完了し、翌日、甲をCの工場にトラックで運びこんだ。
4. Cは、同月27日に電気関係の修理を完了し、甲が正常に作動することを確認して、Bに修理完了の連絡をした。それを受けて、BがAに連絡を取り、甲は同月30日の午前10時にAの工場に戻されることになった。
5. 7月30日午前8時半頃、Cは甲を従業員Dにトラックを運転させて運搬し、Aの工場に午前10時前に到着した。Dは甲を荷台から降ろしやすいように、トラックを後進させてAの工場入口に付けようとしたが、目測判断を誤り、Aの工場の入口脇に衝突した。
6. この衝突により、入口の柱が損傷し修理が必要となり、入口扉の取付部は著しく損傷したので、入口扉は取り替える必要を生じた。これらの工場建物の修理にAは

250万円を要した。

(問)

250万円の建物修理費用は妥当な金額であるとして、Aは、BおよびCに対して、何を根拠にどういう請求をすることができるか。考えられる根拠はすべて検討しなさい。